

2021年3月4日 第15回カムイワッカ部会 資料3-2

ホロベツ以奥の交通アクセスに係る 中長期目標（再掲）

適正利用・エコツアーリズム検討会議
カムイワッカ部会

事業の目的

1. 既存課題を克服し、保全と利用の好循環が実現する国立公園へ

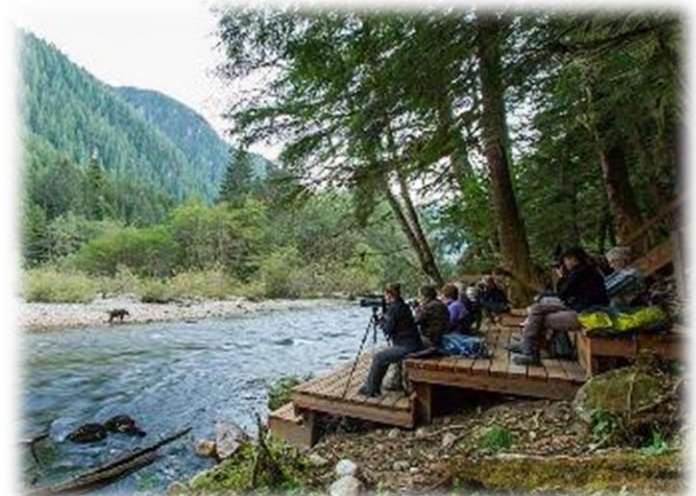
- 課題1 野生動物との軋轢、ヒグマの安全確保
- 課題2 特定フィールドへの集中と乏しいバリエーション
- 課題3 混雑や渋滞

2. 知床本来の魅力を最大限に引き出す 「アフターコロナ」を見据えた観光地づくり

- 地域として目指すべき方向性
 - －体験型、滞在型、高付加価値型へのシフト
 - －他の観光地との差別化

3. 国立公園内外の地域経済への貢献

- －コロナ禍を地域一丸で乗り切るための事業者支援
- －コロナ後を見据えた持続的な事業モデルの構築



「移動をサービスに」 をテーマに新たな方法で試行

中長期目標 達成目標と3年後のイメージ

将来目標1 岩尾別地区-町道での野生動物観光の確立

- 3年後のイメージ
- 1) 9月から10月の車両規制を伴うシャトルバス運行期間の延長
 - 2) 岩尾別地区、岩尾別町道沿いでのヒグマ等野生動物観察の体制づくり

将来目標2 カムイワッカの園地化とリブランディング

- 3年後のイメージ
- 1) 湯の滝試行事業と連携やトレッキング利用、風景探勝の多様な利用の展開
 - 2) 平均滞在時間の延長を図り、これに耐えうるコンテンツの開発・試行

将来目標3 知床五湖の渋滞発生ゼロ

- 3年後のイメージ
- 車両規制の有無にかかわらず、代替輸送の強化と五湖以外への分散化を図る
 - 8月に加え、5月連休、7月連休に対策を行い、渋滞発生日を軽減し、快適・スムーズな利用を実現

将来目標4 制度の最適化

- 3年後のイメージ
- ウトロ～カムイワッカ間の一気通貫でのわかりやすい利用モデルの確立。
 - 運行方式（新方式、従来方式）や規制区間、利用制度との統合化、一本化の推進。
 - 登山者、ホテル等の利用を踏まえた岩尾別地区の最適化と利便確保
 - 有償化の実施。スマートな決済サービスの導入。
 - 旅行業取得と商品化、システム開発、MaaS化に着手。

将来目標5 自律運営体制の確立

- 3年後のイメージ
- 収支バランスの均衡
 - 事業主体としての運営事務局の確立